

埼玉県退職校長会
大里支部会報

おとさと

第60号

(題字は支部長)

令和8年2月1日

発行者

神谷為義

教育の今に思ひこむ

副支部長 小林 正俊



新型コロ
ナが発生し
て以来、生
活様式は
「親しい

密」から「距離の確保と疎」に一
変し、退職校長会の組織活動にも
大きな影響を及ぼしました。また、
支部活動に様々な制限はありまし
た。役員会を実施し、このよう
な状況下での会の在り方を模索し、
会員同士のつながりを確認してき
ました。

さて今、教育界は教員の定数配
置ができないほどの教員不足や教
員を指そうとする若者が減る等
大きな課題に直面しています。社
会の変化に合わせて教育内容が多
義にわたり、教員本来の業務であ
る授業の充実のための時間がない
等、労働環境に問題があるのでは
ないかと報道でも伝えられていま

す。

既にご存じの通りオックス
フォード大学の研究チームは、近
い将来現在存在している職業の半
数がAIに取って代わられると予
測し、世界に大きな衝撃を与えま
した。これに対し、国立情報学研
究所教授の新井紀子先生は、「AI
は万能ではなく人間の仕事の全て
を肩代わりすることは不可能であ
り、人間の仕事全てがAIに代替
されるとするのは誤解である。A
Iは所詮コンピュータに過ぎず、
つまり計算することしかできない。
AIの弱点は応用が利かないこと、
柔軟性がないこと、決められた枠
でしか計算処理ができないことな
どが挙げられる。」という趣旨の発
言をしています。つまり、AIは
人間のように文章をしっかりと読
み取るとは困難なのだそうです。
そうであるなら、今後子どもたち
にしっかりと読解力を身につけ
させることが重要です。そのた
めには、日々の授業において、一
人一人の児童生徒にきめ細かく丁

寧に教科書をしっかりと読み込め
る力を育てることが何よりも大切
だと思えます。

終わりに、コロナ禍で会員の皆
様の架け橋になったのは会報でし
た。会報の重要性を改めて認識し
ました。会員の減少に伴う組織の
意義・活動内容等を皆様と一緒に
考え、つながりを大切にしていき
たいと思います。

「彩の国教育の日」協賛

第四十六回 大里地方教育推進協議会

令和七年十一月十一日(火)

「彩の国教育の日」協賛第四十六
回大里地方教育推進協議会が、深
谷市花園文化会館アドニスで開催
された。参加者は総勢百二名だっ
た。

開会式では神谷為義支部長、大
谷裕紀校長会会長からそれぞれ挨拶
があり、来賓の寄居町長 峰岸克
明様、寄居町教育委員会教育長
関根光男様、県退職校長会会長
新井俊一様から祝辞をいただいた。
続いて協議に入り、提案1は熊
谷市立大幡小学校松原由郎校長か
ら「笑顔いっぱい学校づくり」
のテーマで『児童の笑顔のため
に』①学習内容を明確にした授業

の実施と体験活動の充実に取り組
み、子どもたちに「できた！」
わかった！」を実感させる。②学
校生活アンケート、新しくまなびス
クールを通して安心できる場所の
構築をする。そして、子どもを取
り巻く環境整備として、職員の笑



奥 先生



松原 先生

顔・保護者と地域の笑顔が必要であるとまとめた。

そして感想発表を熊谷市立大里中学校新井美保子校長が行った。

提案2は寄居班 奥 直氏が

「貢献寿命をのぼそうー地域とのつながりを通してー」のテーマで「私の考える貢献寿命」とは、自分の得意なこと・自分の好きなこと・他の人から必要とされることとし、その具体的な取組として①部活動指導員として：寄居町立城南中学校の女子ソフトボール部を担当した。部員数の減少から合同チームを担当したが二〇二三年には全国大会に出場できた。

②公民館長として：今地域に求められるものを把握し、コロナ禍でなくなっていた折原地区体育祭の再開と子どもやお年寄りが参加できる折原レク祭りを実施した。これらのことから年齢を重ねても元気で地域に貢献できる体力と気力の維持が大切であるとの発表を行った。そして感想発表を寄居班 関根正己氏が行った。

指導講評は、北部教育事務所 長 齋藤直美様から二つの発表とも県の新五カ年計画の施策と繋がっているのを得たものであると好評をいただいた。

(文責 福島辰夫)

大里地方 教育推進協議会 感想

推進協議会の感想を来賓と提案者の言葉から述べてみます。

峯岸克明寄居町長は「子どもにとって先生はいつまでも先生です」と言われました。退職して二十年近く経っている私は、緩んだ生活を送っていますが、襟を正していかねばと自戒しました。

現職の松原由郎先生の提案では、「学習内容を明確にした授業の取り組み」という言葉に安堵しました。最近はその主体性を重視するあまり、子どもが自分で好きな課題を作って学ぶという授業を多

く見てきました。その授業は活発な話し合いがあれば目標を達成したというもので、学習内容(指導内容)が明確でない授業だったのです。

退職の奥 直先生の提案は「貢献寿命を延ばそう」です。「貢献寿命」という言葉が新鮮でした。人生百年時代の今日、健康寿命には気を配っていました。しかし提案はそこに止まるのではなく進んで「人のお役に立つ」貢献寿命が大事というもので、先生はその実践者でした。私ももっと積極的に生きようという気持ちになりました。

実り多い推進協議会でした。

(文責 神谷為義)

随 想

教師の職務改革は

熊谷東 伊藤 幸男

現在私は、大学で「教職論」を教えている。その授業で、教師の職務や教育公務員に課せられる職務上・身分上の義務について学ぶ場面である。ウォーミングアップとして、小中高時代の教師の印象的な姿や思い出を振り返り、ペア



やグループで発表し合いながら「職務」について考える。「そういうこともあったね」と思わず笑顔になる意見や「えっ、そんな思いを感じていたのですね」と耳を疑うような意見が聞こえることもある。子どもに対する教師の言動の重要さをあらためて感じる。

教科書には①多様性②不確実性③ジレンママネージャ④非金銭

的報酬⑤他の専門職との違いの五つが教師の職務の特徴として紹介されている。それを読み進めながら、内容に関する意見交換をする。

「多様性」では、学生の深い溜息が聞こえる。諸外国との職務の比較表を見ると、日本の教師の仕事は多岐にわたり、仕事量も他国に比べ圧倒的に多い。また、教師の一日の様子や経験談を読むと、生徒指導や部活動、外部対応等に関わる業務に充てられる時間が想像以上で、多忙の実状を理解する。児童生徒と心を通わし合うことを基盤に築く絆があるからこそ、大変な思いをしても教師をやっているのだという非金銭的価値の重要性を熱く述べる学生もいるが、浪花節だけでは長く心を揺さぶることはできない。「授業づくり以外で労力を求められるのは面倒だ」「土日も自分の時間を持ってなくなる状況は、厳しすぎる」という意見が大勢である。採用試験の倍率低下は、そんな学生の正直な胸の内の証だ。

国を支える人づくりは「教育」が担うはずである。国全体で真剣に教師の職務を見直すことを考えたい。教職課程に、強い志と実力を備えた学生が一人でも多く復活していく時を切望している。

一本の電話

熊谷中央 村田 勻

「もしもし、村田君ですか？」
 小学校四年生の時、電話のかけ方の学習をした。学習指導要領が正式に発足する前年。手回し式電話を使い、別教室の先生と話をした。すごく緊張した思い出だ。

最近、電話にはあまり良いイメージがない。特殊詐欺がその代表。我が家でも、留守録設定にしたり電話番号を確認したりしている。でも、受話器を取るには緊張する。

半月ほど前、一本の電話があった。〇四八八で始まる番号だ。教員として出発した浦和市からだ。教員三年目に担任した子の母親からだった。五十年以上の時が過ぎても、その頃のことか思い出された。父親は熊谷市出身で、熊谷の高校を卒業していた。高校の同窓会名簿が新しく出版された。名簿を手にも、元担任の名前をさがしてくれたのだ。九十四歳になった女性からの一本の電話に、私は沢山の元気をいただいた。電話のお礼を言いながらも、なかなか電話を切れなかった。
 十一月の末に、高校三年十組のクラス会がある。私も幹事の一人

だ。クラス会では、各々の日常報告や欠席者の様子、その頃の話題に花が咲く。人生の一部分を共有した人と接し話をするのは、お互いに元気を与え、前向きに進もうとする気持ちを分かち合うものである。会の実施は傘寿の年までと決めてある。お互いに無理のないようにというのがねらいである。

十月には、浦和で教鞭をとった人の会があった。五人でフルメンバーという少人数。ここではメールが連絡手段だ。
 友人との連絡は、電話も楽しいものである。近頃そう感じる。電話がなかった頃に育った者にとつては、緊張するものでもあるが。



巣穴から出たばかりのカワセミの幼鳥(右)が食べ物(小魚)をねだっているところ

初任者指導を通して

熊谷西 森田 昌孝

現在、初任者指導の拠点校指導教員として五人の初任者を指導しています。役職定年後から二年目になります。自分自身が教育界で三十年以上もお世話になり育てていただいたことを還元できればと思います。

さて、若い先生方は大変多くのパワーがあり、学校を活気づけてくれています。子どもたちにも多くの影響を与えています。その初任者の先生を指導していくことは私にとつても貴重な経験です。また、初任者の先生とじっくり話す機会の中で、仕事に対しての強い気持ちや考え、悩み、不安等についても一緒に考えることは、現在、仕事をしている中でやりがい強く感じています。

そこで、指導をしていく中で大切にしていることがあります。まずは「社会人としての在り方についてです。これは教員に限らず一般の社会人としての基本です。社会に出ると大変多くの方と接します。学校では、職場の同僚や保護者、児童・生徒、地域の方々等多くの人と関わりながら仕事をしています。挨拶や言葉遣い、身だ

しなみ、コミュニケーション能力が要求されます。時代の変化によつて人との付き合い方や考え方も変化しますが、人間関係において不遍的な部分は変わらないと指導しています。また、「教育者として」の在り方については、倫理観、正義感、向上心等が求められます。これからも初任者の先生に寄り添いながら、子どもたちのためにも立派な先生を育てていきたいと考えています。

キウイとレモン

熊谷南 松葉 定市

我が家の庭先にはキウイフルーツとレモンがある。

キウイは、猫の額ぐらいの狭い場所に丸太の支柱を建て、柵にした。初めの頃は枝の剪定の仕方等、育て方もわからず、他所の家の柵の様子を見よう見まねでの栽培であった。それでも、毎年枝が伸び、単管パイプを使い、柵も広げた。

そのうち、月毎に栽培の仕方が解説されている本があることを知り、今ではそれを手本に管理している。写真つきで、摘果や剪定の仕方よくわかり、年ごとに収穫も増している。キウイは一か所に三個の実がまとまってつく。葉五

一枚で一個の実を残すように摘果するということも学んだ。

また、二月の剪定も欠かせないものだが、その仕方もうまく覚えても芽を出し、花を咲かせてくれる。剪定、摘果、摘心と手のかかる果樹であるが、収穫を楽しみに作業を続けている。

レモンは、五年ほど前に妻が買ったもので、その年は実をつけたようだが、管理が悪いのか、生育が悪くなっていた。見かねた私が高きな鉢に植え替え、冬期は寒さに充てないように管理していた。すると、昨春花蕾ができ、やがて三個の実がなった。落果もせず秋には黄色のレモンになった。

しかし、果樹も過保護はよくないのだろう。冬の管理に失敗し葉の色が褪せ、鉢土もふわふわしてきた。案の定、コガネムシの幼虫だった。これが根を食い荒らしていたのだ。仕方なく、地植えにすることにし、キウイの南、木枯らしを避けられそうな所に植えた。アゲハの幼虫による被害に気を付けながら、水やりや肥料を施し、育成を見守っている。

一五〇年の歴史

熊谷北 成塚 誠司

明治八年五月、長勝寺境内において、産声を上げた男沼小学校が統合に伴い、令和七年三月三十一日をもって百五十年の歴史に幕を下ろした。私は新任校長として、四年間勤務した。十五年前を振り返り想いを馳せてみたい。

平成二十二年四月一日、満開に咲き誇る桜に迎えられ着任した。児童九十六名、教職員二十二名での出発だった。

児童は、純朴で明るく素直。上級生は下級生の面倒見がよく、学年を超えて仲がよかった。そんな児童をより理解するために、毎日クラスを回り給食を共にした。楽しいひとときだった。教職員は、児童を「〇〇さん」と呼び、一人一人を大切にしていた。また常に寄り添い、是々非々で日々の指導に当たっていた。保護者は、教育熱心でPTA活動や学校行事等には、大変協力的だった。地域の方々には、登下校の見守り付き添い、男沼小学校地区民体育祭の実施、樹木の消毒、菊作り等々。学校を側面から支援していただいた。縁とは不思議なもので、私がかつて勤めた中学校を卒業した教え

子が、親となり保護者の中に何人もいた。うれしい再会であった。また、親子二代にわたり関わられたことも感慨深いものとなった。

いたわりあって 呼び合って
元気に学ぶ 男沼の子
利根の川面を吹く風に
若いのちの花が咲く

男沼小学校 心のふるさとよ

これは、校歌一番の歌詞である。男沼小学校は、学校としての役目は終えたが、卒業生はもとより、男沼小学校にご縁をいただいた人々たちによって、これからも永く歌い継がれていくだろう。「心のふるさと」として。

ワクワクの草むしり

深谷中 吉田 浩

八十歳のハードルを越えると体力は急降下した。囲碁と渋沢関係のボランティア活動をやめた。退職後に覚えたそば打ちは活動を半減して続けている。

屋敷が三百五十坪ほどあるので記念樹を沢山植えてきた。植木やお花もよいが果樹園を夢見てきた。くしくも七十九歳の時、目標としていた一トンの収穫をクリアすることができた。その後は長年世話をしてきた梅、葡萄、柿、ミカンを残して三年がかりですべて伐採し、元の野菜と花の畑に戻した。今は知人と作物を交換するのが楽しみ。

若い時からの登山もしかり、八十三歳の時に乗鞍、立山、宝剣岳の三山のお礼登山が最後でその後は温泉ハイキングに替えて休養する。

膝をついての草むしりは効率が良い。今は百日草とコスモスが咲き誇り、疲れを忘れる。夕焼けと土の温もりが夢を育んでくれる。菊に囲まれての金婚式は忘れられない。米寿の花舞台の準備でワクワクしている。

あと二年頑張るぞ。



セグロセキレイの幼鳥(左)が親からえさをもらったところ

初任校は鉾山の学校

深谷中 田野 智恵子

授業中けたたましいサイレン、一分後「ズドン」とダイナマイトの爆音と共に教室が揺れる。そこは鉾山の学校、大滝村立小倉沢中学校。私の初任校だ。平賀源内が関わった鉾山で、最盛期は二千人以上が賑い、子どもも数百人いたようだが、私が赴任した昭和五十九年には、男子十一名、女子四名全校十五名、小学校と一緒の小さな学校になっていた。

学校は、大滝村役場から二十キロ以上山奥に入った県境にあり、先生方は鉾山の寮で生活していた。土曜の授業後、先生方は私が作った昼食を食べ、一斉に自宅に帰る。そして、月曜日の早朝、山に戻ってくる、そんな生活だった。

私の担当は家庭科と免許外の音楽。そして、給食。授業よりも、毎日の給食材料注文や調理員さんと打合せがなにより大変だった。

子どもたちとは、学校で授業や部活に夢中になって過ごす毎日。特に四人の女子生徒とは、年も近く女性職員が私一人ということもあり、悩み事を聞くなど本音でぶつかる心地好さを感じていた。そして、仕事が終わり学校から徒歩

で五分の寮に帰ると、まわりは子どもの家ばかり。寮の前では子どもが遊び、保護者から「お帰りなさい」と声をかけられる。特に、地域には家風呂がないため、夜は共同風呂で子どもや保護者と必ず一緒になるなど、子どもと共に過ごす二十四時間の濃密な関わりも、さして嫌と思わず楽しんでいた。

水温み一気に溶け落ちた大滝。山の木々の芽吹。山百合の濃厚な香り。山猿の群れ。錦の紅葉。教室に出来た氷柱。手彫りの長いトンネル。すぐに踊る秩父音頭。四十年以上経っても、鮮明に残る鉾山の学校の生活だ。

今、思ひこ

深谷中 宮前 日出男

早いもので、私が教職を離れて四年の月日が過ぎようとしている。今から四十年前、大きな夢と希望を胸に飛び込んだ教育界、当時は退職のその日まで学校現場で一教師として、やんちゃ坊主達と取っ組み合いの教員人生を過ごすと思っていた私だが最後の数年は管理職としての道を歩んだ。それは、教員人生、やりたいことが思う存分できたことへの感謝の気持ちと恩返し、人のため、未来ある若者のために働こうと思ったからだ。

私の教員人生は生徒指導と部活動に注力し、子ども達に生きる力を身につけさせる日々だった。厳しさは愛だと信じ、本当の優しさはいつか伝わると思っで一担任として二十五年、部活動顧問として十四年、多くのやんちゃ坊主達に目標を持ち夢を共有することの喜びを伝えてきた。彼らが生きる力を身につけ立派に成長した姿を見させてくれることが私の一番の喜びであり誇り。そのために時には自分を犠牲に家族にも寂しい思いをさせた。でも家族は人を育むこの仕事を理解し応援してくれた。まさに家族と共に教職の道を歩んできたようなもの。私がこの道を全うできたのも妻と子ども達のおかげ、どんなに感謝してもなお余りある。私が母を見て教職を選んだのと同様、我が子も同じ道を選んでくれたのはこの激務がただの負担ではなくやり甲斐だったことの証であり、私の歩みに間違いがなかった証だと思ふ。

ただ、今の教育界は世界に誇れる日本由来の教育文化である部活動を地域に委ね、私が信じた教育信条さえ時代だからと否定している。大切なのは時代のせいにするのではなく時代を創る気概を持つこと。働き方改革の前に、先に学び、負担よりやり甲斐、教育にとつて不易とは何か、それを追求する後輩諸兄のささやかな力になりたい。そう、老兵の私は今思っている。



オシドリメスとヒナたち



カワセミ撮影用の止まり木に飛来したヤマセミ

つれづれなる時に

寄居 櫻井 仁志

つれづれなるままに日暮らしく
これは、鎌倉時代の卜部兼好の徒
然草の冒頭部分であるが、最近こ
の一節が度々頭に浮かんでくる。

退職して四年が過ぎ、現役の時
に比べ、自由に使える時間が増え
た。退職前には、退職後は家の片
付け、植木の手入れ、趣味の読書、
旅行等如何に予定を組み、行って
いくかと想像し、多忙な日々にな
ると思っていた。確かに、最初は
思い描いていた通り、捨てたかつ
た父母の衣類、自分の衣類、書籍
の片付け、東北宮城、山形への旅
行、読みたくて買って積んでおい
た本を読む等と順調に進んだ。
ちよどその頃、週三日であった
勤務を四日にして欲しいと頼まれ、
生来の単純さから一日くらいなら
と安易に承諾してしまった。同じ
頃、同居の母の認知症が進み、施
設に入所することになった。高齢
ということもあり、弟、妹と相談
し、週一回は面会に行くことに決
めた。自分の描いていた一週間の
動きを多少変更せざるをえなく
なった。
元々怠け者、言い訳者の私の本
性が表出した。母のことや増えた

仕事を理由にやるべきことが徐々
に進まなくなり、つれづれなる日
も必然的に減っていった。退職後
の一日一日をどう過ごすか、どう
使うか、与えられた時間を如何に
有効に生きるか、常に問われてい
るような気がする。子どもと共に
学びたい、学べるという教職を目
指し、携わってきたこれまでであ
る。今の仕事も学校に直接携わる
ものであり、子ども達に対し恥ず
かしくない日々としたい。



スズメの親子

写真同好会

齋藤 重利

本会の会員数は七名で、主な活
動は年四、五回の合評会です。こ
こでは各会員が作品を持ち寄り、
意見交換を行います。

今回は、各会員の作品テーマを
紹介します。

- A トリックや合成写真、風景
写真など
 - B カワセミや刀剣・居合の写
真など
 - C 鉄道や祭りなどの写真
 - D 農業関係や祭りなどの写真
 - E 旅行のスナップや山などの
写真
 - F 山岳や高山植物の写真など
 - G 富士山や祭りなどの写真
- このように作品テーマは異なり
ますが、撮影が好きだという事は
同じです。入会者の加入をお待ち
しています。

絵画同好会

原口 一明

絵画同好会は、風景写生を六月
と十一月に、人物画制作を二月に、
作品展を水墨画同好会と合同で十
月に開催する事を主な内容として
活動しています。

さて、絵画制作の醍醐味は、何
と言っても、作品に集中できるこ
とです。そして、同好会の方々と
作品について、お互いにコメント
を交しながら、様々な話題の語ら
いをするのが最大の楽しみです。
経験者だけでなく、描くことに
興味があつて活動している方々も
おります。油彩画、水彩画などに
興味のある方は、どうぞ気軽に活
動を覗いてみて下さい。お声が
けしてみてください。



水墨画同好会

小林 芳雄

絵画同好会との合同発表会九月十二日から十四日まで熊谷文化センターで開催、水墨画から三点出品しました。毎年作品展を楽しみにしています。

水墨画は決して難しいものではありません。筆と墨とで遊ぶ気持ちでうまく描こうと肩に力を入れたり、上手に描こうとしたりする前に自由に描いてみませんか。是非一緒に「自由に楽しく」



計報

令和七年

氏名	年齢	逝去月日	地区名
金井 賢治	88	1・6	深谷中
山室 鐵夫	87	2・5	熊谷西
村田 貢	88	3・9	熊谷北
松永 勲	81	4・23	熊谷東
能登 新一	75	5・3	深谷北
新井 茂	95	7・9	熊谷南
志村 邦資	92	7・22	深谷南
瀧口 和夫	95	7・27	熊谷西
舞原 國雄	76	10・2	熊谷北
相馬 貞夫	91	11・10	寄居
新藤 金一	94	11・14	熊谷西
山路 和夫	98	12・20	深谷北

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

役員・理事研修会

鉢形城

そして我が中学校は夢の跡

残暑厳しい令和七年九月七日、指導者に鉢形城歴史館長宮下響子様をお迎えし、鉢形城歴史館及び鉢形城公園に於いて大里支部現地研修会を実施しました。鉢形城跡は東京ドーム六つ分の広さを有し、一九三二年に国史跡に指定されています。

後北条氏第三代の北条氏康は、一五四六年の河越合戦で勝利し関東地方で勢力を拡大し、上野国(群馬県)進出の拠点として四男の氏邦に鉢形城を任せました。鉢形城は、天守閣がない戦国時代の平山城で、城の南側には城下町が栄えていたとのこと。城内からは茶入れや香炉など茶の湯の道具が出土しており、当時の上級武士の生活が偲べれます。

一五九十年、豊臣秀吉によって小田原合戦が始まります。城は荒川と深沢川に挟まれた断崖絶壁の上に築かれていましたが、五万の軍勢に包囲され、三千五百の氏邦勢は籠城しながら一か月間を耐えました。城の南一km程の車山から大砲が撃ちこまれた記録も残って

います。氏邦は家臣の助命を秀吉に訴え鉢形城を開城しました。その後、氏邦は前田利家に預けられ鉢形城は廃城になったと言われています。毎年春、玉淀河原で開催される北条まつりでこの攻防戦が再現されています。

城跡からは、中世の城郭では珍しい石積土塁が発見され、フィールドワークでは、石積土塁や四脚門等を見学することができました。私は、この城跡内にかつてあった城南中学校で三年間を過ごしました。中一の夏、歴史館があるまさにその場所で左目の上を三針縫う怪我を負いました。傷跡に触れながら、戦国時代と中学時代に思いを馳せての帰宅となりました。

(文責 横田 茂男)



第二十七回 秋季親睦ゴルフ大会

令和七年十一月二十一日(金)、上里ゴルフ場で秋季親睦ゴルフ大会を開催しました。紅葉が映える快晴の下、全員がプレーを満喫することができました。

大会の結果は、次のとおりです。
・優勝 関根 隆夫(熊谷)
・準優勝 橋本 耕作(熊谷)
・第三位 橋本 雅之(熊谷)
・ベストスコア 橋本 雅之(熊谷)
来年度も六月と十一月に計画する予定です。多くの皆様の参加をお待ちしております。

(文責 室岡 寛昭)

挿入写真について

挿入写真は、写真同好会の木島宏先生(寄居)より提供していただきました。ご自宅や近くの荒川に飛来した鳥たちの貴重な一枚をお届けします。



水墨画



臨画の部 佳作
「乗鞍山麓の滝」熊谷北 小林 芳雄



臨画の部 入選特別賞
「ミヤマシャクナゲ」熊谷北 小林 芳雄



「すみれいろの女(ひと)」
深谷北 蜂須 栄

絵画



「二枝の枇杷」
寄居 吉田壽美子



合成写真

「UFO写真」
熊谷南 岡部 弘行

編集後記

多くの会員の皆様のご協力により、ここに「おゝさと」第六十号をお届けします。原稿依頼を快くお引き受けいただき、お忙しい中にもかかわらず心のこもった寄稿に、広報部一同感謝しております。お寄せいただきました原稿は、日々の皆様のご活躍や幅広いテーマでの思いのありようが、手に取るように読み手の私たちに伝わる読み応えのあるものばかりでした。また、写真に絵画、水墨画は、趣味の豊かさや質の高さに改めて感嘆しました。

今号より、埼玉県退職校長会HPにアクセスできるQRコードを掲載しました。大里支部の情報も公開しておりますので、ぜひご高覧ください。



埼玉県退職校長会 HP

令和7年度
広報部員

寺 剛 (深谷中)	沢 敏行 (熊谷東)
秋 元 幸和 (熊谷中央)	飯 野 和明 (熊谷西)
戸 坂 好伸 (熊谷南)	福 田 根郎 (熊谷北)
関 根 達直 (深谷北)	笠 原 正史 (深谷中)
笠 原 正清 (深谷中)	保 泉 之 (寄居)

埼玉県退職校長会大里支部会報

(第六十号)

発行 令和八年二月一日

発行者 支部長 神谷 為義

印刷所 東洋印刷 株式会社

深谷市深谷町一―三三五

〇四八(五七二)〇五六七